

第8回 武庫川女子大学

研究成果の社会還元促進に 関する発表会

+ 異分野交流カフェ（2023年度第3回）

2024/ 2/15（木）

14:00～16:00 終了後～異分野交流カフェ（1時間程度）

会場：公江記念館 地下1階 大講義室 KM-B109（発表会のみZoom併用）

武庫川女子大学における多様な分野の研究成果をお聞きいただける機会を設けました。各発表ごとに質疑応答時間も設定しております。お気軽にご参加ください。また、発表会終了後、異分野交流カフェ（女性活躍総合研究所主催）を開催いたします。異分野の研究者と新しい研究のタネを探してください。

【プログラム】

14:00～14:05

開会・開会挨拶

14:05～

発表

※発表概要・発表予定時間は裏面参照

	発表者	タイトル — サブタイトル —
1	薬学科 教授 吉田 都	抗菌ペプチドおよび抗菌ペプチドのバイオコンジュゲートの抗微生物活性評価 — 抗菌ペプチドの薬物送達システムへの応用 —
2	看護学科 教授 藤田 優一	学習支援ボランティア「ふでばこ」の学生を対象としたインタビュー調査
3	経営学科 助教 谷口 浩二	産学連携による地方創生人材の育成 ～ふるさと納税返礼品開発に関する報告～
4	経営学科 助教 藤井 善仁	集落の社会的機能にみる過疎地域の現状と課題 — 中山間地域のジェンダーを視点として —
5	共通教育部 教授 山本 晶子	内部統制を基軸とした行政経営に関する研究（中間報告） — COSOフレームワークの活用 —
6	生活美学研究所 教授 森田 雅子	野球聖地の生活質感とこれからの展望（3）住環境アンケート自由記述 —（2020年1月～12月甲子園番町街全世帯配布・回収分）—
7	健康運動科学研究所 助手 森田 彩	ライフステージにおける地域住民の健康調査に関する連携活動 — 芦屋市ヘルスアップ事業との連携における検討 —
8	附属総合ミュージアム 特任教授 横川 公子	モノにみる現代日本の生活文化と歴史の発掘及びその活用に関する研究 — 附属総合ミュージアム所蔵の中田家コレクションの学術的活用 —
9	教育研究社会連携推進室 特任教授 大坪 明	大規模団地で新型コロナ後に再開された「夏祭り」の子ども達にとっての意義 — 高須夏祭りでのアンケート調査を通して —
10	教育研究社会連携推進室 特任教授 大坪 明	丹波市でのハッピーバース応援ギフト事業の評価等に係る調査 —最終報告— — 木製玩具等の贈呈を受けた人のアンケート回答の分析を通して —

武庫川女子大学

主催 教育研究社会連携推進室

共催 女性活躍総合研究所・研究開発支援室

西宮市池開町6-46

Tel：0798-45-9854（直通）

E-mail：shakai@mukogawa-u.ac.jp

第8回研究成果の社会還元促進に関する発表会

生活	産業	文化・芸術	発表者・発表時間	概要
○	○		[15:05～ 15:17] 薬学科 教授 吉田 都	13塩基の抗菌ペプチドが抗微生物活性を示すことを明らかにし、そのペプチドに生分解性高分子を結合させたバイオコンジュゲートを調製し、抗微生物剤の薬物送達システムへの応用の可能性を示したことを発表する。   
○			[15:17～ 15:29] 看護学科 教授 藤田 優一	外国にルーツをもつ子どもへの学習支援ボランティア「ふでばこ」に参加する本学の学生、卒業生を対象に、活動の動機、地域住民と支え合っていくにはどうすべきか、「ふでばこ」の今後等についてインタビュー調査を行ったので報告する。     
	○		[15:29～15:41] 経営学科 助教 谷口 浩二	応援したい自治体に寄付できる制度であるふるさと納税は、2021年度の入金額が約8302億円に達し、過去最高を記録した。そのふるさと納税制度は、当初返礼品への期待から寄付を行うことが多かったが、現在では地域貢献・地域応援目的の寄付が増えてきている。商品開発において大企業、実践の場として三重県多気町の協力の元、実施した取り組みについて報告する。  
○			[15:41～ 15:53] 経営学科 助教 藤井 善仁	多くの農村が備えている社会的機能を整理した既存研究より、集落の機能維持に必要な住民意識の現状と課題をインタビュー調査から検討した事例研究となる。今後の過疎地域では、集落機能を高めていくようなジェンダー平等の視点が重要となる。 
	○		[15:53～ 16:05] 共通教育部 教授 山本 晶子	組織における健全な意思決定および組織のガバナンスを支える内部統制システムを有効に運用するCOSOフレームワークを基軸とした「持続可能な行政経営のあり方」に関する研究の中間報告を行う。 
		10分休憩		
○			[16:15～ 16:27] 生活美学研究所 所長・教授 森田 雅子	今回は実施アンケートの21以上の記述欄の文言に注目する。野球聖地の生活質感を表す指標として捉えた。この記述でアンケート回答者は、状況を補足説明し、日頃の所感を発露する。アンケート実施者に対するメッセージでもある。地域の未来共創に少しでもお役に立てば幸いである。       
○			[16:27～16:39] 健康運動科学研究所 助手 森田 彩	芦屋市ヘルスアップ事業との連携による「ライフステージにおける地域住民の健康調査」において、成人・高齢期の男女を対象に体組成や運動機能、ロコモ、調整力等に関する測定、アンケート調査を実施。事業紹介、前期からだ測定会の様子と中間報告をする。    
○	○		[16:39～ 16:51] 附属総合ミュージアム 館長・特任教授 横川 公子	モノを通して一般の暮らしの裏と思想の実体を探求し、モノと人間とのアクチュアルな関係性に立ち入ることで、モノの背後にある生活文化と歴史を明らかにすることを目的とする。大阪市美草園の町家に遺された中田家コレクションをめぐり、一般人の参画の仕組み・ミュージアムサロンを立ち上げ、現代の普通の暮らしが投げかけている実体的な思想に接近した。 
○			[16:51～17:03] 教育研究社会連携推進室 室長・特任教授 大坪 明	近隣団地で3年ぶりに再開された夏祭りでのアンケート調査で、夏祭りが多くの人の「楽しみ」の対象で、団地外も含む広範囲の人々の行事であることが確認できた反面、会った友達や誘った他国ルーツの友達の数は多くなく、コロナの影響で「楽しさ」の共有や、自国文化を他国ルーツの者と共有する意識の希薄化が見受けられた。   
○	○		[17:03～17:15] 教育研究社会連携推進室 室長・特任教授 大坪 明	丹波市の「ハッピーバース応援ギフト」で、新生児の居る家庭に木製玩具等を贈る取り組みは、被贈呈者からは一様に感謝が寄せられた。特に居住歴が浅い人たちが、幼い時から木製品に触れさせることに意義を見出していることから、丹波の良さや木育の大切さを理解していることが示唆された。     